

「グローバル社会に対応する女性研究者支援」プロジェクト
<http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrsupport/>

NEWSLETTER

目次：

女性研究者支援について 思うこと	P1
第4回男女共同参画 セミナーを開催	P1
女子 高校生のための Sophia実験教室を開催	P1
第2回女性研究者ロール モデリング国際シンポジ ウムを開催	P2
意識啓発セミナーを開催	P2
グローバルメンター相談 会を開催	P2
第7回女子学生キャリア アップ支援コロキウムを 開催	P2
学生企画ワークショップ 「グローバルメンターに 学ぶ研究発表」を開催	P2

女性研究者支援について思うこと 理工学部教授 田宮 徹



私が理工学部長のときに、研究支援センターの協力を得て申請し、採択された上智大学女性研究者支援プロジェクトについては、グローバル30とともに、私にとっては子供のようなプロジェクトです。当時、学術交流担当副学長であった、リンダ・グローブ先生も私と同じ思いだと思います。

上智大学全体としては、女性研究者の数は21%で、まだ50%までは達していませんが、全国平均としては、ある程度のレベルにあります。ところが、理工学部についてみると、5%以下であり、全学生中の女子学生の割合に比べると非常に少ない状態です。理工学部教員の定員(38 X 3 =114理工学部再編時の副学長との約束)114名で考えると、女性研究者の割合を25%とすると29人(四捨五入)となります。絶対数が多いため、女性研究者の割合を大きくするのは、かなり難しいことがプロジェクト申請時に明らかでした。そこで、新たに採用する教員

中の女性研究者の割合を25%として、順次女性研究者の割合を増やしていく計画としました。しかし、この目標も達成できていないのが現状です。この原因は、教員の公募をしても、女性研究者が応募してくる割合が極端に少ないことです。女性の割合が多いと思われる生物系の教員についても、女性の応募者の割合は20%前後という状況です。機能創造理工学科で公募したものについては女性の研究者の応募が0のこともあり、本来の目標を達成するのは非常に難しい状況です。上述のような現状を考慮すると、理工系での女性研究者の割合を上げるためには、現在の学部学生、大学院学生に対して希望のあるキャリアパスを示してあげることとともに、女性にとって魅力的な職場をつくる必要があることを痛感しております。

第4回男女共同参画セミナーを開催

2月16日(水)に、福島みずほ氏(参議院議員)をお迎えし、第4回男女共同参画セミナーを開催し、105名が参加しました。

福島氏が内閣府特命担当大臣在任時に深く携わっていた第3次男女共同参画基本計画を中心に講演されました。まず、日本社会における女性の現状(雇用、出産・育児等)、ここ10年の男女共同参画に関する動きと、第3次男女共同参画基本計画の重点分野である、雇用、DV防止等について話されました。

質疑応答では、教職員だけではなく学生からも活発な質問がありました。福島氏のパワフルかつ親しみやすい話ぶりに、参加者は熱心に聞き入っており、男女共同参画推進にかかわる課題を改めて認識するとともにエンカレッジされたようでした。



講演を行う福島氏

女子高校生のためのSophia実験教室を開催

次世代育成支援の一環として、2月19日(土)に女子高校を対象とした実験教室を開催し、約30名が参加しました。

理工学部の3学科の先生や学生が実験等を女子高校生と一緒にを行い、大学における研究のおもしろさを体験してもらうとともに、本学の理

工学部の紹介をしました。実験教室終了後には、「理工学部により興味がわいた」「興味のなかった分野にも楽しい実験が多く、勉強してみようと思うきっかけになった」という感想がよせられました。



高校生に熱心に指導する林教授



第2回女性研究者ロールモデリング国際シンポジウムを開催

3月9日(水)、上智大学2号館国際会議場にて、第2回女性研究者ロールモデリング国際シンポジウム「グローバルメンターに学ぶ女性研究者キャリア」が開催され、90名が参加しました。

冒頭の小林 順治学生総務担当副学長(プロジェクト実施責任者)のご挨拶に続いて、早下 隆土理工学部長(プロジェクト推進代表者)による、プロジェクト報告が行われました。

その後、山口 陽子氏(東海大学)により、principal investigator (PI)と呼ばれる独立したポジションについての説明を軸としながら、日米における研究者キャリアパスや制度の比較について、ご自身の経験も織り交ぜながら述べられました。今おかれている状況を理解しなければ目標を達成することもできないため、自身の状況をしっかり理解して、努力し続けることが大切だとお話しされていました。

次にPauline Schaap氏(University of Dundee, UK)より、オランダ及びイギリスにおける研究者としてのキャリアパス、経験された障壁等について述べられました。安定したポジションを得るまでに想定される困難を克服していくためにも、なぜ科学者になりたいのかということに常に自問し続け、困難な時でも自らを動機付

けし続けることが重要だと、メッセージを下されました。

続いて、Teresa Suárez氏(CIB Dicty Lab, Spain)が、スペインにおける

女性研究者の実態についてご説明された後、ご自身のバリでのポストク時代の充実していたお話等を述べられました。「怖がらずに良い研究室を選び、ポストクをやってほしい。そのことが実りあるキャリアにつながる」と締めくくりました。

3名の発表の後、Linda Grove教授(国際教養学部)のコーディネートによる総合討論が行われ、会場から寄せられたワークライフ・バランスや女性のネットワーキングについて等の質問に対し、それぞれが意見を述べられ、活発に討論が行われました。

最後に、山岡 三治総務担当理事(上智学院男女共同参画推進本部長)がご挨拶され、閉会となりました。



総合討論の様子

意識啓発セミナーを開催

3月9日(水)、山村康子氏((独)科学技術振興機構 科学技術振興調整費プログラム主管)をお迎えし、本学常務会メンバー及び局長を対象に、意識啓発セミナーが行われました。

山村氏は、「女性研究者支援システム改革プログラム」について説明され、上智大学の取り組みについて、ミッションステートメントで掲げた数値目標達成に対する責任、事業終了後の継続

策の重要性などについて強調されました。

また、大学特有の問題としては、機関内の流動性の少なさをあげられ、上層部の先生の意識改革の重要性を話されました。



セミナー風景

国際シンポジウム講演者 Dr. Pauline Schaap及びDr. Teresa Suárez 参加イベント

グローバルメンター相談会を開催

3月8日(火)、両氏による、理工学部の女性研究者・学生を対象としたグローバルメンター相談会を実施しました。6名の学生と2名の女性研究者が参加し、海外での研究生活についてアドバイスをいただきました。



Schaap氏研究発表



研究発表を行う女子学生



Suárez氏研究発表

第7回女子学生キャリアアップ支援コロキウムを開催

3月10日(木)、両氏の研究発表が行われました。世界の先端をいく研究内容に、本学だけでなく他大学からも参加者があり、熱心な討論が行われました。

学生企画ワークショップ「グローバルメンターに学ぶ研究発表」を開催

3月11日(金)、学生企画による、物質生命理工学科学学生の研究発表会が行われました。研究内容に関してだけでなく、プレゼンテーションのしかたについても助言がありました。また、Schaap氏より環境分子生物学研究室の齊藤 玉緒准教授に対して、共同研究の提案がなされました。



編集後記

この度の東北・関東大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。目の前にあることをまっすぐ見つめ、今できることから自分なりに始めるということが、自然災害時だけでなく、全てにおいて大切であると再認識しています。気持ちも新たにプロジェクト最終年度をスタートしたいと思います。

問い合わせ・連絡先:

上智大学女性研究者支援事務局

102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1

場所: 10号館3階315室

電話: 03-3238-4052

mail: wrsswg@sophia.ac.jp

http://www.erp.sophia.ac.jp/Projects/wrssupport

